

HIDEKI ICCHINO
EXHIBITION

～人間、いのちとかたち～

市野英樹展

2024年5月20日[月]→6月21日[金]

430回ぬましんストリートギャラリー

協力：安曇野ギャラリー留歩



《すわる女》 油彩、キャンバス 80号 1984年

市野英樹さんのこと

1960年代の終わり頃、上野の東京藝術大学の市野英樹さんのアトリエを訪ねたことがあった。当時の藝大は美校も音校もこげ茶色の木造洋館で明治のままだった。美術学部も音楽学部も昔のまゝ美校、音校と呼ばれていた。校舎に入るとほんのり明るく、高い天井のアトリエで市野英樹さんはほぼ室内と同色の絵を描いていた。グレー、イエロー・オーカー、ローシエナが基調で少し目が慣れてくると、描かれているテーマが浮かび上がってきた。

それは室内風景で、目を凝らすと空間の中に人々が登場した。交わされる会話は清澄な空気の中で、ゆっくりと時が進む。そして美校の、壁をつたわって明り取りの窓につながっていく。当時の絵画の流行とは全く違う作品に出会ったのだ。

1969年10月東京都美術館の二紀展で峻烈なデヴューとなった作品だった。岡田信一郎設計の旧都美術館にふさわしい作品だった。第2室に2点130号Fが存在感を示していたのだ。130号は大作で、表層的な鮮やかさと力でぐいぐいおす作品の中で新鮮だった。深くじっくり描き込んだ表現は今日に至る。

1976年東京店大阪フォルム画廊で大作による私風景展を結成、仲間がふえた。北久美子、滝純一、玉川信一、塚本裕志、富樫京子というメンバーはこの場所から大きく画壇に羽ばたいて行った。現代日本美術展、安井賞展への出品、三越本店美術画廊、大阪高宮画廊での個展で注目された。

市野英樹さんとは2代に渡る。父上の長之介さんと、私の父の正雄とは長いお付き合いで市野英樹さんとは、何十年と数えたら良いのだろう。

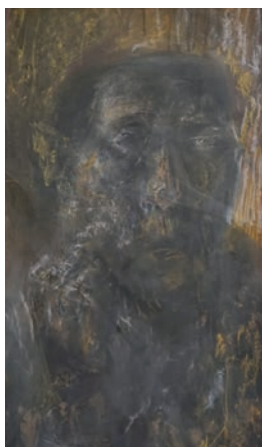
市野英樹さんの作品は語りかけの作品でいままで作品は語り続けている。深く味わいがあり絵とともに過ごせば思索と豊かさが得られよう。

藪野 健(日本芸術院会員 府中市美術館館長)

市野 英樹 HIDEKI ICHINO (1942-)



- 1942年 名古屋生まれ 川崎市在住
- 1969年 東京藝術大学大学院油画修了
二紀展出品
(以降毎回出品 二紀展にて宮本賞、鍋井賞、等受賞)
- 1975年 第18回安井賞展出品 (以降6回出品)
- 1979年 第1回明日への具象展出品 (以降5回出品)
- 1984-85年 文化庁在外研修員としてフィレンツェ滞在
- 1993年 IMA「絵画の今日」展出品 (以降2回出品)
- 1994年 個展(名古屋画廊 以降1回)
- 1997年 個展(クワトロガッツ 以降1回)
- 2002年 「DOMANI・明日展」出品
- 2008年 本田希枝と二人展(松山三越)
- 2012年 3人展(ギャラリーしらみず)
- 2013年 個展(安曇野 ギャラリー留歩 以降2回)
- 2015年 呼友会 SixConceptions(ギャラリー呼友館)
- 2019年 個展(ギャラリー呼友館)
- 現在 二紀会委員 名古屋造形大学名誉教授
作品所蔵 東京都美術館・愛媛県立美術館・佐久市立近代美術館
早稲田大学 他



《男》パステル、紙



《室内にて》油彩、キャンバス 30号



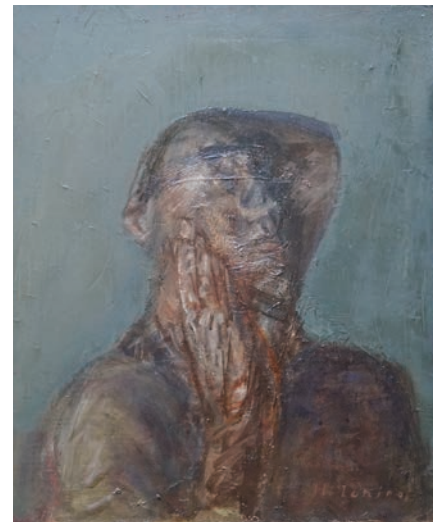
《少年》パステル、紙



《男》パステル、紙



《女》油彩、キャンバス 30号



《少年》油彩、キャンバス 8号



《男》パステル、紙



沼津信用金庫本店 〒410-8610 沼津市大手町5-6-16
TEL 055-962-5200

沼津信用金庫本店のウィンドウギャラリー
JR沼津駅南口より徒歩5分/夜10時までライトアップ



ぬましんストリートギャラリー
<https://www.numashin.co.jp/street/>

Hideki Ichino